

木々の会 2023年度活動報告

I. 一年間のまとめ

【概況】

木々の会は、歴代理事長の宇田達夫氏、吉田和子氏よりバトンを受け継いだ新理事長とともに、2023年度より新しい役員を含めた体制でスタートしました。

これまで木々の会を支えて下さっている皆さまのご尽力に感謝をしつつ、改めていろいろな面で過渡期を迎えていることを感じます。

今年は新しいグループホームを開設しました。これに伴う職員の異動や退職等により各所で職員体制が変化し、一年を通して新規職員採用に力を注いだ年でもありました。求人難に対応するため求人サイトを利用しての募集も初めて試みました。

この一年、さまざまな課題と向き合いながら歩みを重ねています。

【コロナの影響を含めた地域活動支援センターの一年】

「新型コロナウイルス」も5類感染症に位置付けられ、落ち着いては来たものの、コロナ禍の3年間の影響は少なからずありました。“安心して通える場”を目指し、多くの活動が再開されている一方で、通所されるメンバーが少なくなっています。コロナをきっかけにして、体力的に低下(足腰が弱る、転倒し骨折等)や通所するモチベーションの低下もみられました。ご自身だけでなくご家族の高齢化等、それぞれの事情もあります。

来ることはなかなかできないにしても、慣れた場所での電話相談や人との繋がりを求めている人は多く、いつでも行かれる“居場所”を大事に思う気持ちが伝わってきます。

現メンバーや新規メンバーを迎えるにあたり、改めてニーズを探り、『地域活動支援センター』のあり方を検討していく必要性を感じます。

【新グループホームの開設】

2年をかけて、2軒目となる新グループホーム『メゾンいさな』を1月1日に開設しました。7名の入居者を迎えて、それぞれの生活が安定するように、また入居者同士の繋がりや職員との関係づくりを重視し、日々過ごしてきました。法人内の両グループホームの連携や地域活動支援センターとの連携、また周辺の地域の方たちとの交流も始まっています。

【パートナーの今後の模索】

2004年に「協同」の取り組みが始まり、「ボランティア」から「パートナー」という呼び名になってから20年が経ちます。喫茶『ゆいまーる』を中心に「協同」が始まり、リサイクル事業やそれぞれの活動へと広がってきました。

今ではあたりまえのように関わって下さっている「パートナー」の存在ですが、当初から関わられている方たちの高齢化や関わり方の変化も見られます。

木々の会として大事な存在の「パートナー」の今後を模索する機会となるような研修会の開催は持ち越しましたが、どのように継承していくのかを、ぜひみなさまと一緒に考えていきたいと思っています。

【事務局体制の整備】

2つの『地域活動支援センター』と2つの『グループホーム』という事業に対応し、法人の活動と運営を支える軸となる事務局の整備に着手しました。10月より事務局職員を2名体制とし、事務所の備品を購入し、事務環境を整えました。

また事務局職員と担当理事が役割分担を確認し、協力しながら業務に当たりましたが、事業所数が増え、職員数も増えたことで業務量や内容も変化し、対応に追われています。

今後も事務局に求められることが多い中で、課題や役割を整理しつつ、体制強化につなげていきます。

II. 個別事業のまとめ

1 障害福祉サービスに関する事業

- 木々の会で2軒目となるグループホーム『メゾンいさな』が開設した。また職員の入退職・異動があり、地域活動支援センター、グループホーム共に職員体制が大きく変わった。新規職員を対象にしたオリエンテーションを法人内で実施した。
- 地域活動支援センター、グループホームの職員が、日常的に情報共有、連携を取りながら業務を行った。合同スタッフミーティングでも課題の共有等も行い、より連携力の強化を図った。グループホームの報酬制度が大きく変わる中で、他の法人とも連携を取りながら情報収集を行った。旭区の自立支援協議会など、様々な外部の機関と連携する場面も多く見られた。
- 木々の会人権擁護・虐待防止委員会を開催。各事業所の情報共有と虐待防止に向けた今後の方針等を話しあった。【I-11参照】

(1) 地域活動支援センターの運営

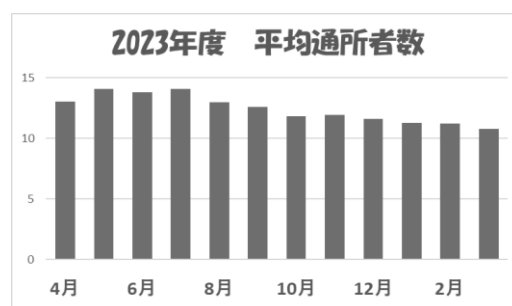
- 新型コロナウイルスの類型が変わり、様々な定義も見直された。陽性者との接触が確認された際は事業所としてどう考えるのかを求められ、両地活の間で細かく情報共有をしながら対応を行った。徐々にコロナ前の日常が戻りつつあるが、自粛期間が続いた影響も未だに残っている。
- 就労など活躍の場を見つけるメンバーが出てくる一方で、両地活ともに通所者数は減少傾向である。日によって通所者数にばらつきがあり、通所者数が安定しない日々が続いている。
- BCP(事業継続計画)の作成に着手したが、各様式書類を実用できる形にする等、運用に向けて課題も多く残っている。両地活間で情報共有も行いながら、運用できる形に近づけていきたい。
- 横浜市健康福祉局から障害者支援センターへ業務移管され、7月には実地指導も行われた。必要に応じて支援センターに連絡を取り、情報収集を行った。

(1-1) 木楽舎

開所日数 232日

利用者登録状況 (入所0名 退所2名)

	登録者数	男	女	横浜市内	横浜市外
2023年4月	32	23	9	32	0
2024年3月	30	21	9	30	0



① 一年のまとめ

- “外”での活動の再開

新型コロナウイルスが5類に変わり、外に出ていく多くの活動が再開された。レクリエーションは全体で出掛けるレクも含めると、10回程の開催となった。販売の場でもメンバーが参加し、活躍する場面が多く見られた。外での活動はいつもと違う刺激を与えてくれる。販売等で活躍したメンバーが少しずつ自信をつけ、活動に参加する場面が増えてきている。活動に参加する機会が増える事で新たな交流が生まれ、新しい自信につながっている。定期通所が難しかったメンバーも、少しずつリズムを取り戻してきている。時間がかかったとしても、それぞれのペースは違うが、木楽舎に通う事で、色々なメンバーが地域で暮らしていくための基盤を整えている。

○ メンバーの逝去、通所者数の減少

- ・夏に2名のメンバーが逝去し、多くのメンバーが別れを惜しんだ。弔問時には多くのメンバーが参列し、逝去したメンバーが木楽舎で紡いだ交友関係の大きさを物語っていた。
- ・通所日を増やすメンバーがいる一方で、高齢化や体調が安定しないメンバーも増えてきた。年間での延べ通所者数は減少し、作業に入るメンバーも減少傾向で、メンバー達からも場に対する不安が聞こえる場面が増えてきている。活動も徐々に再開されている中で、新しい木楽舎の場をどのように作っていくのか。みんなで時間をかけながら考えていく1年になる。

○ 職員体制の変化

8月には1名が産休、11月には1名が事務局に異動し、職員体制が大きく変わった。体制が落ち着かない中で、メンバー達は場を支えようと協力してくれている。積極的に声をかけてくれることで職員の気持ちも和らぎ、木楽舎の場に馴染んできている。ベテランメンバーは作業を担う一員として場を引っ張っている。先輩達の背中を見ながら、それに続くメンバー達もそれぞれができる事を頑張ろうと尽力してくれている。

○ グループホームの開設

1月に2軒目のグループホーム、メゾンいさなが開設し、木楽舎からは3名が入居した。生活環が変わる事への心配もあったが、顔なじみのメンバーがいる事で早くも入居者同士の交流も生まれてきており、入居者にも笑顔が多くみられるようになった。一方で、環境が変わることで生まれた新たな課題も出てきており、今まで以上に地活とグループホームで連携し、メンバーの生活を支えていくことが求められる。

新型コロナも予断を許さない中ではあるが、メンバーの入院先や自宅への訪問等も再開の兆しが見えてきている。体調が安定せず定期通所できないメンバーたちにも積極的に声をかけていきたい。退所者2名。

② 安心できる場作り (作業及び活動プログラム)

「働く」 *喫茶 ・「ゆいまーる」水、木、金曜に営業 125日

- ・「ゆいまーる」貸切営業鶴ヶ峰ケアプラザ、平林さんを偲ぶ会
- ・クリスマスフェア 店当番・出張喫茶 コロナ感染症拡大防止の為中止。
- ・むくどりまつり・二俣川駅出張販売・今宿西ケアプラザ祭り
- ・第25回旭区精神保健福祉セミナー(喫茶出店)

*毎日の昼食作り

*防災・防災ミーティング・避難訓練(地震・火災)

「楽しむ」 *全体レク ・マザー牧場 ・クリスマスランチ ・お寿司の会

- *有志レク ・国立近代美術館 ・上野美術館&動物園 ・ジュラシックパーク展
- ・映画『OUT』 ・旭ジャズまつり ・さがみ野ファーム祭り
- ・有志でいくロイヤルホスト

「その他」 ・千須和さん弔問 ・柴田さん弔問、葬儀参列、お墓参り

「会活動との連携」 *工賃、展示、みんなの会の各チーム、木々の会便り編集委員会

*みんなの会 ・事務局会 ・クリスマスフェア ・木々の会研修

③ 旭区内の活動を担い、交流する

- ・ふれあいスポーツ大会(ボッチャ企画準備) ・旭区保健福祉セミナー(オンライン開催)
- ・あっぱれフェスタ ・旭区精神連絡会 ・旭区喫茶、製菓グループ
- ・鶴ヶ峰地区ささえあい連絡会

④ 啓発活動 メンバーとスタッフで精神障害、病気、木楽舎の活動について説明する。

*職員新規採用希望者 ○看護学生実習受入 12名

*見学(木楽舎を知りたい、入所したいという見学者) 4組7名

⑤ 個々のニーズに応じて

*木楽舎内の相談援助 面談、電話相談、スマホ関連：随時 金銭(家計簿含む)1名
生活ノート1名

*同行による支援 通院 成年後見制度説明 職安等

*他 ・ケア会議 5回 計画相談会議 20回

*新規計画相談契約同席 2名

⑥ 運営連絡会開催状況

* 6月19日(月) 令和4年度事業/決算報告、上半期計画 (10名)

*10月16日(月) 上半期活動報告、下半期計画、インフォメーション (10名)

* 3月18日(月) 下半期報告、令和5年度計画/予算 (9名)

(1-2) むくどりの家

開所日数 235日

利用者登録状況(退所5名)



① 一年のまとめ

○新型コロナウイルス感染症が5類になり、むくどりの家のプログラムは、レクリエーション以外は戻りつつある。またこれまでオンライン開催となっていたイベント(旭区精神保健福祉セミナー、あっぱれフェスタ等)が久しぶりに対面で行われた。準備段階から他の事業所と協力しながら交流を深め、改めて顔の見える関係性が重要であると感じた。

○通所されるメンバーが少なくなっている。コロナをきっかけにして体力的に低下したり(足腰が弱る、転倒で骨折等)や通所するモチベーションの低下がみられる。ご本人とご家族の高齢化等もあり、なかなか通所は出来ないが電話での相談等での繋がりを求めている人は多い。通所されているメンバーのニーズに合わせてプログラムの見直しや「地域活動支援センター」の役割等についても検討していきたい。

○年度途中で、正規職員の異動や新規採用、非正規職員の退職があった。職員体制が変わることでの不安定さはあったが、いろいろな職員が関わることで新しい風が入り、それぞれを認め合いながらむくどりの家も豊かな場になっていくと思えた。

② 作業及び活動プログラム

○手織/これまで織りをして来た人たちがやれなくなる一方で新しく織りに関わる人が出て来た。織りの楽しさを継承していきたい。

○文具/メンバーが描いた絵をしおりやハガキに製品化した。メンバー考案のシールも好評であった。文具ミーティングも毎月開催。

○ランチづくり/パートナーと一緒に作ることでメニューも広がり、安心して調理に入ることができた。買い物も協力しながら取り組めた。

○菜園/プランターになり植える作物に限られる中で、試行錯誤をしながら楽しんで育てることができた。収

穫した野菜は販売をした。

- 季節の食品づくり/感染症対策に努めながら、協力しあい 15 kg分の味噌仕込みを行った。ブラックベリージャム作り等。
- 印刷/関係機関や法人内等の印刷・製本の受注を受けた。
- メンバーミーティング(1日ミーティング含む)/計 25 回、各活動ミーティング(随時)。
- スポーツ/旭区ふれあいスポーツ協議会主催のボッチャ大会(6月)、卓球大会(10月)に参加。他事業所との交流を楽しんだ。
- 場を支える活動/会計(工賃計算、ランチ会計)、清掃、整理等。
- 生活支援/訪問、通院付き添い、生活相談(電話を含む)。
- その他/竹細工、演劇ワークショップ、ボディワーク、SBT(光輝)、ヨガ、福寿荘カフェボランティア、DV鑑賞、もぎり絵ワークショップ、異文化交流(ネパール・ダルバート作り)、墨遊び等。

③ 行事

- むくどりまつり：11月16日
- 研修『元気になる事例検討会』、『虐待防止研修』、『滝山病院事件の現状・背景・私たちにできること』、『職員自主研修』、『ゲーム依存と発達障害』、『生活の中で支えるやわらかい回復』、『木々の会 新人研修』、『愛着障害と支援の基本』、『滝山病院からの退院支援の現状と私たちにできること(第2弾)』、『山口達也さん 依存症を語る』
- 見学/『事業所見学 地域活動支援センターegao(えがお)』
- レク(有志)『大西暢夫 写真展 ひとりひとりの人』
- 地域交流行事/クリスマスフェア(ゆいま〜る)、あっぱれフェスタ(旭公会堂)、旭区精神保健福祉セミナー(旭公会堂)
- その他/避難訓練・防災ミーティング：5月11日、11月29日
地域防災拠点開設訓練：2月18日

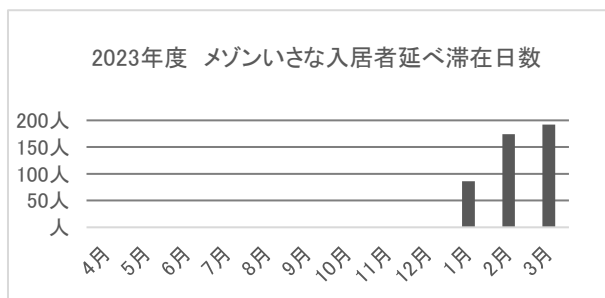
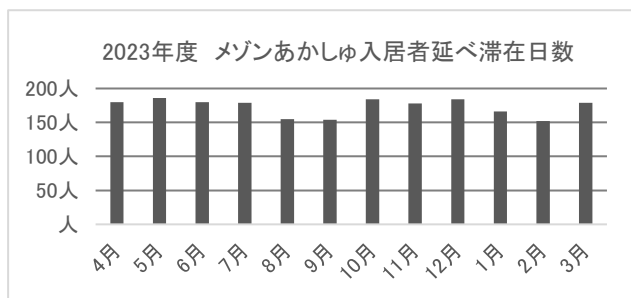
④ 研修・見学受け入れ

当事者、家族、パートナー(ボランティア)、地域住民、関係機関職員等 計11回 16名

⑤ 運営連絡会開催状況

- * 6月30日(金) 令和4年度事業/決算報告、上半期計画 (12名)
- * 10月27日(金) 上半期報告、下半期計画、むくどりまつり等イベントについて (17名)
- * 3月15日(金) 下半期報告、令和6年度事業計画/予算について (15名)

(2) 共同生活援助(グループホーム)



① 一年のまとめ

- 木々の会のふたつめのグループホーム「メゾンいさな」が1月1日に開設した。

○メゾンいさな開設時の職員配置の変更に加え、職員の入退職があり、ふたつのグループホームともに入居者と職員が新たに関係性を構築している。

○来年度から義務化となる感染症BCPを作成した。

② 生活支援

○入居者の支援については、障害分野だけでなく必要に応じて介護保険サービスやそれ以外の分野も視野に入れながら、それぞれが希望する暮らし方を応援できるよう模索している。

○希望者には、宅配弁当手配や食事会提供などの食の支援をすることで、家事の負担の軽減をおこなっている。平日には週2、3回配食サービスの利用、祝日や長期休暇を中心に食事会を開催している。2023年度食事会開催 メゾンあかしゅ25回、メゾンいさな4回。

③ 地域交流 ・川井夏祭り 8/13 ・川井地域ケアプラザ文化祭に入居者2名が参加 3/9、10
・今宿町内会まつりに木楽舎が出店、メゾンいさな有志で参加 3/17

④ 委員会・会議

○メゾンあかしゅ運営連絡会開催 7/25、10/30、3/12

○職員会議 5/22、6/14、8/25、9/13、1/10、1/29、2/28、3/14

○外部会議 旭区自立支援協議会実務者定例会 4/19、7/19、10/11

市精連居宅部会 9/12 旭区精神GHミーティング 5/30、8/29、11/29、2/27

⑤ 職員体制

○メゾンいさな開設にともない両方のグループホームで正規が3名、非正規が5名の職員体制になった。入居者の状況に応じて新しい職員配置が行われた。

○職員の入退職に応じて業務の引継ぎが行われた。

⑥ 研修

・法人内研修 6/5、7/4

・旭区自立支援協議会研修 7/28、8/30、9/29、10/6、3/13

・実習 横浜マック 2/5 むくどりの家 3/21

・防火管理者研修 1/30

・サービス管理責任者基礎研修 8/4

・サービス管理責任者補足研修 1月

・その他 6/19、7/13、11/15、11/10

(2-1) メゾンあかしゅ

生活の場であるグループホームでは職員との連絡について、入居者からは個人のプライバシーを尊重し、「調子の悪い日もあるので、連絡できなくても多めに見てほしい」「勝手に部屋に入らないでほしい」と言われていた。そんな中、入居者1名が急逝（自室で病死）した。入居者のメンタルケアに十分に配慮して過ごす中で、連絡がとれなかった日の職員の対応について話し合い、入居者の意向を確認した。連絡の取れない当日に開錠してほしい入居者2名、翌日の開錠希望は3名であった。

9月末には新しい入居者を迎え、他の入居者・職員の関係作りは順調に進んだが、今後も配慮していく。

自然災害BCPを職員間で共有し、入居者にも防災訓練等で必要に応じて共有した。いさな開設に伴い、あかしゅも新しい職員体制となった。

(2-2) メゾンいさな

1月1日開設。入居者7名は1月中に全員の入居が完了した。

メゾンあかしゅとはニーズの異なる入居者に対応できるよう、職員体制や情報共有に配慮した。入居者と職員、他の入居者の関係性作りは順調に進んでいる。

メゾンいさな開設にあたり、多くの寄附や物品提供を頂き、温かなリビングルームになっている。地域との連携が図れるよう町内会、近隣の住人、ケアプラザと積極的に交流を図った。

2 社会参加と地域交流に関する事業

(1) リサイクル活動 担当：滝田

3年ぶりにリサイクルセールを秋に1回のみ実施した。10/26、27 売上¥39、120
クリスマスフェアへの参加及び店番のシフトに協力した。12/6～8、12/13～15 売上¥78、200
以前のパートナー皆が参加できるわけではなく、リサイクル担当の支え手が少なくなっている。

(2) 文化活動 担当：滝田

○絵手紙

コロナ禍以降、茶菓子の提供をやめ、参加費も300円とした。

カレンダーづくり・年賀状など例年に戻っての活動(7回)。木々の会情報交換の場でもある。

○展示 担当：平野 進藤 滝田 岡山

*7月にもぎり絵のワークショップを開催。もぎり絵か絵を描くか選択して実施した。参加者25名。
作品をゆいまーる店内に展示した。

*ゆいまーるで開催された個人の作品展の展示撤去に協力した。

*ゆいまーるでのクリスマスフェア搬入・搬出を担った。

○「墨あそび」 1月9日に実施。参加者27名。作品をゆいまーる店内に展示。

毎年展示を楽しみにしてくださっているお客様も多い。

○手づくりの会 活動休止

(3) 地域交流イベント 担当：宮地、望月、伊藤

新規事業(グループホーム)立ち上げと、職員の産休が年度当初に予想されるようになったため、2023年度の地域交流事業の実施はやむなく見送った。

3 生活支援に関する事業

(1) 「食」から暮らしを考えるチーム 担当：寺本、伊藤、石渡、望月、川田

○「多世代食堂」見学会 5月19日(金) 生活クラブ旭センター

横浜みなみ生活クラブ生協主催「みんなの食堂」を見学。参加=寺本、伊藤、石渡(た)

提供されている夕食の試食、見学(フードバンク含む)の後、コーディネーターの方から話を伺う。開催場所や告知についての助言もいただいた。利用する方がどうしたら利用しやすいかを考える良い機会となった。

○年度内に一回は食事会を実施したいと考えていたが実施に至らなかった。「チーム」として検討・企画を行なう態勢をつくることができなかった。

*しゃべり場 担当：松元、川田

5/14 4人、7/30 4人、11/3 6人、1/14 4人

会場：あとりえ不動産(和田町)

日常生活のお互いのささいな困りごとや心配ごと、願いを共有し、お互いに助けられることは助けられたら、と始まったグループ、毎回、お菓子等持ち寄りで、和やかに楽しい場をもつことができた。

新規参加を期待し、法人外への声かけも試みたが、参加メンバーが固定。何かしらの化学反応や、新規事業へのきっかけを期待したが、その兆しを掴むことができず、休止。開催場所など改めて考えたい。

4 研修・啓発・広報に関する事業

(1) 研修 担当：望月、川田、岡山

「地域の中で木々の会の果たす役割」について、「パートナー」をキーワードに探っていきたいと計画したが、実施には至らなかった。担当者が「パートナーのかかわり」の担当と兼務しており、今後は協力していきたいと考えている。

外部研修への参加は次のとおりである。参加者からは、人権のない精神病院の実態への怒りの声とともに、情熱をもってかかわっている関係者への敬意の声が聞かれた。

- ① シンポジウム「滝山病院の現状・背景・私たちにできること」
2023年7月1日(土) 14:00~16:00 神奈川近代文学館 木々の会参加者 14名
内訳：会員(メンバー・職員・パートナーを含む) 13人 会員外(メンバー) 1名
- ② 第2弾シンポジウム「滝山病院からの退院支援の現状と私たちにできること！」
2023年12月2日(土) 14:00~16:30 木楽舎(オンライン参加)
参加者 9名会員(メンバー、職員、パートナーを含む)
- ③ 新任職員オリエンテーションを実施 10/24、10/31、11/7(3回シリーズ)
これに続く初任者研修のプログラムの検討を開始した。

(2) 広報 担当：広報委員会(志澤、望月)

- ① 『木々の会便り』編集委員(望月、志澤、川田、伊藤、佐々木あ、竹内、今須、平野、加藤、滝沢)
新規グループホームの開設と職員募集関連の業務に忙殺されていたこと、担当職員の産休などが重なり、10月号の発行が出来ず、年2回の発行にとどまった。
 - 76号(7/14) 180部新旧役員紹介、職員体制 など
 - 77号(1/6) 280部新年のご挨拶 など〈共通内容：巻頭言、インフォメーション〉
- ② 活動のお知らせ 担当：松田
96号(4/25) 100部 97号(6/27) 100部 98号(8/27) 100部
99号(10/26) 100部 100号(12/26) 100部 101号(2/22) 100部
- ③ ホームページ 担当：岡山 〈助言・制作〉井川行正氏
各事業担当者によりニュースが随時更新された。計画したブラッシュアップはできなかった。
- ④ リーフレット
必要な修正を加えながら印刷し、活用した。

(3) 研究および出版 担当：北川、川田

- ① 『友よ、今は深く眠れ』読書会の開催 講師=宇田達夫氏
11月28日(火) 午後、ゆいまーるにて、会員・メンバーの希望者に呼びかけて開催した。
4名参加。講師を交えて日ごろ感じていることや疑問などを出し合い、それぞれに新たな気付き

を持ち帰った。

今後は読書会のワクを少し広げて定期的な場を持ちたい。

② 「協同」の研究

パートナーの今後や当事者の運営参加などを掘り下げる計画だったが、実施できなかった。

今後は研修会企画の中で検討したい。

III. 組織運営

1 定期総会

【日時】 2023年6月10日(土)

【場所】 旭区福祉保健活動拠点「ぱれっと旭」 多目的研修室

【開催方法】 コロナ禍をへて4年ぶりに以前のかたちで開催し、多数の会員・メンバーとともに進めることができた。

【総会出席者数】 当日出席 51 人、委任状提出 59 人、出席者総数 110 人

司会：小野 / 議長：北川 / 議事録署名人：吉田、渡辺 (や)

【議案及び議決結果】

1～5号議案は過半数、6号議案(定款改定)は4分の3を超える賛成をもって可決された。

2 理事会

新たな理事・監事メンバーにより、グループホーム新設と職員雇用、職員就業条件改定等の労務関連の他、法人運営に関わる諸事項を審議した。土曜日午後に開催した。

回	開催日	出席 監事含	オブザ ーバー	議 題
1	4月22日	10	4	総会開催と議案について、グループホーム新設 他
2	6月10日	9	4	理事の役割分担、求人の方法、地活処遇改善助成金 他
3	7月1日	10	0	理事長等の選任について
4	7月22日	11	3	年間計画と理事分担、役員報酬、新GH、職員求人、給与規則改定
5	10月28日	12	2	上半期収支、下半期計画、GH開設、職員求人・採用 他
6	2月3日	10	5	各事業所次年度計画・予算、法人決算見込、次年度方針、新規GH開設、監査指摘事項対応 他

3 事務局

下半期より職員2人体制がスタートした。構想されてから2年越しでやっと実現した。

経理・労務等実務面で複数により相談・確認できる安心感が増した一方で、事業所・職員数の増による業務量・内容の変化が著しく、対応に追われた。又、事務備品の購入により事務所環境を整えた。

求められることや期待と実際のギャップをどう埋めていけるかが次年度の課題となる。

① 日常の事務局体制

・事務局職員：松田職員：従来通り週3日(9:00～17:00)勤務。事務所において業務を行った。

10月より増員、2名体制へ。岡山職員(新)：週3日(9:00～17:00)勤務。

- ・事務局担当理事：望月・川田が総務、労務、財務等に関わり、随時、業務にあたった。
- ・実務者ミーティング 事務局員および担当理事によるミーティングを月一回行った。

③ 事務局会議 月1回開催

構成＝事務局担当理事、職員（事務局、地活、グループホーム）

内容＝会活動全般について実務的な調整や検討・意見交換を行い、理事会や各事業部門との橋渡しをする場として毎月1回開催した。このうち3月、4月は拡大事務局会とし、活動担当者や地活メンバーも参加し、日ごろの活動状況や思いを共有した。

④ 専門家（税務会計・労務）との連携

- ・税理士打合せ 5/25 板倉事務所を訪問 会計事務・税関係の疑問点の確認、決算の進め方等
- ・社労士打合せ 6/6 書類整備確認、指導、11/30 定期訪問
- ・各事業所経理担当者会合 決算に向けてスケジュールの確認 3/12

4 中長期ビジョン検討・構想チーム「チーム21」

2021年に理事会のもとに設置された「基本課題検討チーム」を必要に応じて開催するとしていたが、本年は事務局体制整備に注力したこと、下記の地G検を頻回に開催したこともあり、開催しなかった。

5 地域活動支援センター・グループホーム運営検討会議（略称：地G検）

非正規職員の処遇と規則類整備をはじめとして、雇用・労務関係の課題を検討し、理事会に提出する規定案を作成した。また、指導監査の指摘事項に対応する規定等の整備についても検討した。

構成メンバーは、各事業所施設長・管理者、担当理事、社会保険労務士（助言者）及び事務局。

回	月日	人	内 容
1	5月23日	7	非正規職員の処遇、資格加算、処遇改善手当の申請、職員求人・採用について
2	7月20日	5	諸手当新設に伴う給与規則の改定、非正規職員の処遇について
3	10月5日	6	給与規則改定、指導監査指摘事項、非正規職員の処遇、GH規則改定について
4	12月11日	6	監査指摘事項の検討、非正規職員に関わる規定の整備、GH規則更新について
5	1月15日	6	文書処務規定策定・会計規則改定、非正規職員に関わる規定の整備等について
6	2月29日	7	非正規就業規則改定、自動車通勤規定改定、その他
7	3月28日	6	非正規就業規則、時間外勤務、GH報酬改定への対応、次年度の会議について 等

6 運営連絡会（地域活動支援センター、グループホーム）

各事業所の報告参照【I-4、5、6】

7 グループホーム開設委員会 担当：川田、石渡ま、望月、田代、木栓、岡山

2年越しの木々の会2か所目となるグループホーム「メゾンいさな」開設（2024年1月1日）にむけて活動した。物件探しに苦労する中で、木々の会のグループホームが大切にしたい柔軟な運営と「温かな人との距離」を実現しやすくするには6～7名の入居者が望ましいという結論に立ち、その条件に合う現物件での開設にむけて、設備の確認、職員の配置、資金計画などの検討を行い、理事会へ提案した。

第1回(2023.5.9) 設計図面の確認

第2回(2023.6.2) 開設スケジュール、資金計画の検討

第3回(2023.7.10) 規程類修正、入居者負担家賃額、資金回転、募集要項等の検討

以降はメール連絡での対応を行なった。

*グループホーム入居者募集：11 関係機関への配布報告 *追加変更工事見積の確認

*グループホーム名称募集の確認 *進捗状況(工事/入居者/職員公募)の確認

建設費高騰/追加工事に伴う自己負担増により、回転資金の不足を進捗の中で気づいたが、時間もなく関係者だけでの対応となり、開設委員会が機能しなかった反省がある。

8 人権擁護・虐待防止委員会 担当：田代、川田、望月、内田、守屋、木松 【I-2参照】

2023 年度の委員会を 2/29(木)に開催。虐待防止のための取組状況や身体拘束等適正化指針についての確認を行った。7 月と 12 月に開催された滝山病院シンポジウムに木々の会研修として参加した。その後、虐待事案が発生した際に委員会がどのように動くかの流れの確認や、次年度に向けた課題の整理などを行った。委員会記録は職員に周知を行った。

9 みんなの会 担当：佐々木(長)、市川、今井、大久保、岡山、佐々木(歩)、内田

1 月のみ中止となったが、感染症対策に気をつけながら対面で 3 回開催することができた。今年度入職した職員も下半期から担当として加わりフレッシュに。

また新しい GH 開設に伴い、みんなで名前を考え、建ち上げに向けて興味を持って話を聞く機会にもなった。3 月には GH 職員や育休中の職員を招いて賑やかに行われた。

メンバー・パートナー・理事・職員が一同に集まる貴重な機会であるので、今後も感染対策を心がけながら計画していきたい。

日時	場所	人数	内容
6 月 20 日(火)	白根地区センター	38 名	① 工賃チームより ▶2022 年度作業会計決算報告 ② 新グループホームについて
10 月 17 日(火)	白根地区センター	27 名	①工賃チームより ▶2023 年度作業会計上半期報告 ②地域活動支援センター職員紹介
3 月 19 日(火)	白根地区センター	37 名	①工賃チームより ▶2023 年度決算見込み、年度末還元金について ②グループホーム職員紹介等

10 パートナーのかかわり 担当：吉田、川田

① 「パートナーの手引き」の作成

担当者の事情によりできなかった。パートナー（協同）のしくみ、ルールなど基本的な確認は必要であり、引き続き検討したい。

② パートナーどうし交流するための集まり及び研修や研究・出版活動との連携も実施できなかった。引き続き検討したい。

11 人事異動

*入職	李 沢龍	木楽舎・メゾンいさな非正規職員	8 月 9 日付
*入職	金城裕磨	むくどりの家正規職員	9 月 27 日付
*入職	佐々木歩果	木楽舎正規職員	9 月 28 日付
*入職	米川早苗	木楽舎・メゾンいさな非正規職員	10 月 18 日付
*入職	守屋梨絵	メゾンあかしゅ正規職員	1 月 1 日付
*入退職	西 泰子	むくどりの家非正規職員	8 月 21 日～2 月 20 日
*入退職	長谷川周平	メゾンあかしゅ正規職員	12 月 18 日～3 月 26 日

*退職	木桧朱実	メゾンあかしゅ正規職員	3月20日付
*退職	長島未来	メゾンあかしゅ非正規職員	3月20日付
*退職	山関はるな	むくどりの家正規職員	4月30日付
*転任	岡山えりか	木楽舎・メゾンあかしゅ ⇒木々の会・メゾンあかしゅ・メゾンいさな兼務	10月21日付
*転任	加藤満寿美	むくどりの家⇒メゾンいさな	12月21日付
*転任	松元康太	メゾンあかしゅ⇒メゾンいさな	1月9日付
*転任	滝沢早苗	メゾンあかしゅ⇒メゾンあかしゅ・メゾンいさな兼務	1月9日付
*産育休	伊藤舞	木楽舎正規職員	8月7日～

IV. 関係団体との協力

関係団体や機関と協調・連携しつつ、会の諸活動を行った。

【旭区内】旭区社会福祉協議会、旭区地域自立支援協議会、共に歩む市民の会、旭区ふれあいスポーツ協議会、あけぼの会、誠心会、横浜友の会旭方面、白根地域ケアプラザ、川井地域ケアプラザ、今宿西地域ケアプラザ、福寿荘、グループホーム「ハイツ川井」「ハイム朋」（運営連絡会委員派遣）、不動丸小学校地域防災拠点運営委員会、鶴ヶ峰地区障がい者地域作業所連絡会 他

【旭区外】横浜市精神障害者地域生活支援連合会（市精連）、「SAORI」 他